

きらめき通信

52

相和小学校放課後教室
発行日 2021.3.1
発行責任者 野地 泰次

アトガキ

東君平

ヒトニ アツタラ
ハナシテミヨウ

ハナガ サイタラ
ホメテアゲヨウ

カゼガ フイタラ
フカレヨウ

ホンガ アツタラ
ヒライテミヨウ

ジカンガ アツタラ
カンガエヨウ

カミガ アツタラ
ナニカラ カコウ

エンガ アツタラ
マタアオウ。

『紅茶の時間』サンリオ（出版より）

学校の休校から始まった令和2年度も、残り少なくなりました。子どもたちも、「自粛」&「マスク」の疲れがたまっているのではないかと思います。

さて、東君平（ひがし くんべい）さんの「アトガキ」という詩ですが、とても自然体な生き方を感じます。いま、余裕のない状況下ではありますが、少し歩むスピードをゆっくりにしてみると、また違った景色が見えてくるでしょう。

子どもを見る目も、忙しく、また時間に余裕がないと「何やってんの」ととがった味方になりがちです。でも、ちょっとだけ呼吸をおいて見てみると、楽しい光景に映ることもあるでしょう。

いつもとは言いませんが、一呼吸おいて見つめるひとときも大切にしたいものです。

今年度も、ご協力賜り、ありがとうございました。

のどかな 子どもたちのひととき



懇談会が行われたときは、グラウンドが久しぶりの賑わいでした。（写真右）一人遊びに始まる子どもの遊びも、学年を追うごとに徐々に広がりを見せています。それは、「仲間がいなかつまらない」という感覚に導かれます。

春の緊急事態宣言下での外出自粛、休校により、今年度の子どもの遊びは大きく変わりました。あれだけサッカーをやっていた子どもたちがほとんどいなくなり、小さな遊びばかりになってしまったように思えます。

低学年は、上学年のやさしさや思いやりを支えられて育っていきます。

また、高学年は、こうした行動を通して自分の成長と、あるべき姿を身につけていきます。正に相互学習の貴重な場がそこにあります。

さらに異学年の交流は、相和のシンボリックな、そしてずっと消えてはならないものとして残っていくことと思います。

早くコロナが終息し、通常の生活となり、グラウンドにいつもの「底抜けに明るいはじける笑顔」が戻ってくることを願いながら……。